

1 国語

(1) これまでの課題

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 漢字の読み書きや語彙力が不十分である。
漢字練習やノート整理など自主的な学習が定着していない。
自分の意見を伝えたり、他人の意見を聞き取ったりする力が不十分である。
- ・ 2 学年 長文を読みこなす力が不足している。
漢字の読み書きや語彙力が不十分である。
適切な表現を使い、読みやすく丁寧に文字を書く習慣が身に付いていない。
自分の考えを伝えたり、他人の考えを受け止めたりする意欲が不足している。
- ・ 3 学年 説明的な文章を読み取る力が不足している。
文法の力が十分身に付いていない。
論理的な文章を書く力が不足している。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 漢字力や語彙力が不十分である。
文章読解の力が不足している。
自主的な学習が定着していない。
- ・ 2 学年 漢字の読み書きや語彙力が不十分である。
自分の考えを論理的に表現したり、他人の考えを受け止めたりする力が不十分である。
長文を読みこなす力が不十分である。
- ・ 3 学年 漢字の読み書きや語彙力が不十分である。
長文を読みこなす力が不足している。
論理的な文章を書く力が不足している。

(2) 指導目標

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 基本的な学習習慣を身に付けさせるとともに、漢字の力を高め、表現力（書くこと、話すこと）を培う。
- ・ 2 学年 漢字力、語彙力を身に付けさせ、長文読解の基礎力を身に付けさせる。
- ・ 3 学年 漢字、文法の基礎力を定着させ、説明的文章の読解力を高めると共に、論理的な文章を書く力を身に付けさせる。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 漢字力、語彙力を身に付けさせ、表現に即して読み取る力を培う。
- ・ 2 学年 語彙力、漢字力を身に付けさせ、長文読解の基礎力を身に付けさせる。
- ・ 3 学年 漢字、文法の基礎力を定着させ、長文読解力を高めると共に論理的な文章を書く力を身に付けさせる。

(3) 指導の重点

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 話し合ったり、意見を交流したりすることを学習に生かす基礎を固める。
ノートや作文用紙の使い方、漢字の書き取りなど基本的な個人学習を一人一人に定着させる。
- ・ 2 学年 「読むこと」の力を確実に身に付けさせるため、多くの文学的文章、説明的文章に触れさせる。
漢字練習や漢字小テストを繰り返し実施する。
読書単元を設定し、読書への関心をさらに深めさせる。
家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 3 学年 「読むこと」の力、特に説明的な文章を読む力を伸ばすため、多くの論説文等に触れさせる。
文法について、復習の時間を十分取り基礎を定着させる。
課題作文など、書く機会を多く作り、論理的な文章を書く基礎を身に付けさせる。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 漢字や語彙の基礎力を身に付けさせる。
様々な文章に触れさせ、文章読解の基礎力を身に付けさせる。
自主的に学習する習慣を身に付けさせる。
- ・ 2 学年 多くの文章に触れさせたり読書の授業を行ったりすることで読む力を付ける。
自分の考えを表現したり、他の人の意見に自分の考えを重ねたりすることで書く力、話す力を付ける。
漢字・語句・文法の小テストを繰り返し行い、自ら学習する機会を多くもたせる。
- ・ 3 学年 「読むこと」の力を高めるために多くの文学的文章、説明的な文章に触れさせる。
漢字練習や漢字小テストを繰り返し実施する。
論理的な文章を書く力を身に付けさせる。

(4) 授業改善に向けての具体的な取り組み

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 作文や話し合いなどの取り立て指導を年 3 回は行い、授業での評価の目標などを明確にする。
- ・ 2 学年 教科書教材以外の様々なテキストを用い、多読することで読解力向上を図る。
授業の中で意識的に意見交流の場を設け、発信・受信力を付けさせる。
発達段階に応じた課題図書を選定し、感想メモや読書カードを記入したり、読書紹介したりすることによって読書活動を振り返らせる。
- ・ 3 学年 教科書教材のほか、問題集等を使い、読解力の向上を図る。
多くの練習問題に取り組みさせることで、基礎力の向上を図る。
問題集の課題作文を、計画的に数多く書かせる。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 定期的に漢字テストを行い、間違った漢字は徹底的に練習させる。
様々な文章を読み、言葉にそって心情や情景を読み取らせ、また、読書を通して読むことのおもしろさを感じ取らせる。
漢字の問題集、教科書に準拠したワーク等で、計画的・自主的に学習させる。
- ・ 2 学年 教科書教材以外の作品も読み、自分の考えを表現し、考えを交流させる機会を学期に一回はもつ。
読書単元を設定し、読書への関心を一層高める。
漢字学習や小テストなどを繰り返し行い漢字力、語彙力を向上させる。

- ・ 3 学年 教科書教材のほか、問題集等を使い、基礎学力や読解力の向上を図る。
授業の中で意識的に意見交流の場を設け、受信・発信力を身に付けさせる。
書く機会を多く設定し、論理的な文章を書く力を身に付けさせる。

(5) 平成 22 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

- ・各学年とも最も自己評価の低い項目は、「発言したり質問したりしたか」である。積極的に発言できる雰囲気や、学び合いによる場の設定など、工夫が必要である。
- ・授業の仕方では、「発言や質問を受け止めてくれたか」の「あてはまる」が低い。生徒の状況を見極め、適切な対応をする必要がある。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

- ・ 1 学年 授業態度はよく、課題にも積極的に取り組んでいる。
資料やプリント教材がわかりやすかったという意見が多かった。一方、板書で整理してほしいという意見が多かった。
発言を活かし、多くの生徒の発言を授業に取り込んでいくことが課題である。
- ・ 2 学年 「発言したり質問したりしたか」に対する自己評価が他の項目に比べて大幅に低い。
「忘れ物をしないで授業を受けたか」については、9 割の生徒が概ね達成できていると評価しているが、教師はそうは思えず生徒の意識と差がある。
先生の話し方が分かりにくい、授業の進め方が速いと感じている生徒が全体の 1 割程度いる。
持ち物宿題等の連絡をはっきりと伝えて、忘れ物を防ぐことと、生徒の反応を見ながら授業を進めることが今後の課題である。
- ・ 3 学年 全般的に、3 年間の積み重ねの成果が出た結果といえる。
「発言したり質問したりしたか」については、「あてはまる」と答えた者は 41% で、「ややあてはまる」と合わせれば 7 割に達する。昨年から見ると自己評価は上がっているが、残る 3 割の生徒も共に、どう積極的に向かわせていくかが課題である。

ウ 授業改善の手だて

- ・ 1 学年 到達目標を意識して伝え、単元ごとの振り返りを毎回行う形式で授業を進める。
生徒の文章や自己評価の結果を授業に反映させ、個々の生徒の課題にあった形で参加しやすい授業ができるように工夫していく。
5 領域がバランスよく授業に取り込めるようにする。
- ・ 2 学年 授業計画をきちんと立て、発問と期待する反応をあらかじめ考えておく。
発言をうながす働きかけを授業の中で根気よく行う。
授業の目標を明確にして生徒に伝え、授業の終わりに振り返りの時間を取る。
- ・ 3 学年 「発言や質問をする」ためには、自分自身を安心して披露できるような授業の雰囲気、温かい人間関係というものが根底に必要である。3 年間で作り上げてきた友達、また教師との人間関係を軸として、次のような工夫をする。

- 発問を工夫する → 易しく誰でも安心して答えられるようなものを組み込む。逆に、難易度の高いもので、力のある者が意欲をもてるようなものも適度に散りばめる。
- 学び合いの場面を作る → 生徒同士の活動の中で、意見を言い合えるような場を設定し、発言のチャンスを広げる。

(6) 平成 23 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

- ・各学年とも、最も自己評価の低い項目は「発言したり質問したりしたか」である。その前年も同じ結果だったため、学び合いの場を多く設定するよう取り組んできたが、依然として自己評価は低い。さらに学び合いがしやすい場面を作っていくとともに、誰もが安心して発言できるような発問、発言に意欲をもてる発問を工夫していく必要がある。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

- ・ 1 学年 「発言したり質問したりしたか」に対する自己評価が、他の項目に比べて低い。中学生になって意欲をもつ生徒も多い反面、分かっていながら自分から発言しようとしなない生徒がいる。意欲と発言をどう結び付けていくかが課題である。
言語活動に関する 3 項目は、「ややあてはまる」以上の自己評価が 86%～97% で全般的には悪くないが、問 7、問 8 の「あてはまる」が 40% 台にとどまっている。それぞれの学習のポイントをさらに徹底し、自覚させていく手だてが必要である。
- ・ 2 学年 「発言したり質問したりしたか」に対する自己評価が、他の項目に比べて最も低い。
「先生の話し方が分かりにくい」「授業の進め方が早い」「めあてが分かりにくい」と感じている生徒が少なくない。授業内容が十分理解できない生徒が昨年以上に増えていることが考えられる。
「話す・聞く」の言語活動に関する自己評価が高い。この生徒の自己評価の結果は、1 年次よりも目標を高めて行った言語活動に対しよく努力していると感じる教師の感覚を裏付けている。
- ・ 3 学年 「発言したり質問したりしたか」に対する自己評価が、他の項目に比べて低い。
言語活動の「適切な言葉遣いで意見交流できましたか」では、「あてはまる」60% 「ややあてはまる」31% で 9 割に達する。学び合いの場を設定して取り組んできた成果といえる。

ウ 授業改善の手だて

- ・ 1 学年 発言しやすい授業環境を作り、簡単な発問と、難易度の高い発問を織り交ぜるなど、発言の意欲を引き出す工夫をする。
言語活動に関して、表現や言葉に対する意識を高める指導を工夫する。授業後、生徒それぞれに振り返らせ、各自の成果と課題を明確にさせる。
- ・ 2 学年 授業計画を綿密に立て、発問と期待する反応をあらかじめ考えておく。
授業の目標を明確に授業の中で伝え、振り返り提示できるようにする。
多くの生徒が発言できるような発問を心がける。
漢字・語句・文法の学習など知識を定着させる学習内容を増やし、成果が上がるまで努力させる小テストや評価カードをつくり、学習の成果を実感できるようにさせる。
生徒の反応を見ながら授業の難易度を見極め、わかりやすい授業を心がける。
- ・ 3 学年 授業計画をしっかり立て、発問と期待する反応を事前に準備しておく。
「意見交流」という学び合いの場を今後も継続して取り組んでいく。
授業の目標を明確にして生徒に伝え、授業の終わりに振り返りの時間をとる。

(7)平成 22 年度学力調査から授業改善へ

ア 学力調査の推移

・現 1 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
H22 年 6 月 学力調査	90.4%(78.3%)	80.6%(75.7%)	92.1%(77.9%)	75.7%(73.5%)	81.2%(70.3%)

・現 2 学年本校（全国・区平均）

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
H22 年 6 月 学力調査	81.1%(73.6%)	82.1%(83.4%)	81.9%(71.6%)	72.0%(66.1%)	76.9%(70.0%)
H21 年 4 月 学力調査	80.2%(81.5%)	82.2%(79.4%)	48.8%(51.0%)	51.2%(50.9%)	34.9%(40.2%)

・現 3 学年本校（全国・区平均）

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
H22 年 6 月 学力調査	84.0%(76.6%)	85.9%(77.7%)	75.6%(66.7%)	60.9%(65.0%)	77.0%(70.0%)
H21 年 4 月 学力調査	80.4%(83.0%)	86.4%(83.7%)	52.3%(50.9%)	50.3%(47.1%)	66.3%(66.7%)
H20 年 10 月 学力調査	62.5%(61.2%)	78.4%(74.7%)	56.5%(51.6%)	58.3%(52.0%)	68.2%(61.4%)
H20 年 4 月 入学時学力調査	79.2%(79.5%)	76.8%(76.9%)	71.6%(70.0%)	42.2%(40.0%)	51.9%(54.1%)

イ 結果分析と考察・課題

- ・ 1 学年 「意欲・関心・態度」と「書く」について平均を大きく上回り小学校から意欲的に国語に取り組んできたことが分かる。特に作文ではほとんどの生徒がきちんと取り組んでいる。
「読むこと」も平均を上回ってはいるが、5 観点中では最も低い。
- ・ 2 学年 「書く」が全国平均を大幅に上回った。感想文や作文の計画的な指導が功を奏している。
「話す・聞く」がわずかに全国平均を下回った。集中して聞くことの苦手な生徒が見受けられる。
「言語事項」については、前年度より大きく伸びた。継続的な漢字テストの成果である。
- ・ 3 学年 「書く」の伸びが顕著である。作文の授業を計画的、集中的に行った成果である。
「読む」では、説明的文章の読解力が全国平均を下回った。筋道を立てて読み取り、根拠をもって答える、という意識の希薄さが原因と考える。
「話す・聞く」「言語事項」は、反復して行った聞き取りテストや漢字テストの成果が出ている。

ウ 課題解決のための手だて

- ・ 1 学年 「読む」については、学習方法を工夫して様々な読みの体験をさせるとともに、知識の習得にも意識的に取り組めるよう工夫する。
- ・ 2 学年 「話す・聞く」については、計画的にスピーチを行い授業で取り組んでいる。話す力はかなりついているが、今後「聞く」ことに重点を置き、授業を工夫したい。「聞き取りテスト」についても

継続して行っていく。

- ・ 3 学年 「読む」力の充実を図る。特に説明的な文章について、時間と教材の工夫をし、演習問題に多く取り組ませる。そこで答えの根拠となる事柄をしっかりと意識する訓練を積む。

(8)平成 23 年度学力調査から授業改善へ

ア 学力調査の推移

- ・ 現 1 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
H23 年 5 月 学力調査	80.2%(65.8%)	73.4%(78.8%)	80.9%(63.6%)	72.0%(68.1%)	79.9%(75.6%)

- ・ 現 2 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
H23 年 5 月 学力調査	83.5%(60.0%)	87.4%(70.0%)	82.6%(60.9%)	73.8%(67.0%)	71.5%(77.9%)
H22 年 6 月 学力調査	90.4%(78.3%)	80.6%(75.7%)	92.1%(77.9%)	75.7%(73.5%)	81.2%(70.3%)

- ・ 現 3 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
H23 年 5 月 学力調査	78.8%(60.0%)	75.7%(70.0%)	77.7%(61.8%)	57.2%(67.2%)	71.6%(73.4%)
H22 年 6 月 学力調査	81.1%(73.6%)	82.1%(83.4%)	81.9%(71.6%)	72.0%(66.1%)	76.9%(70.0%)
H21 年 4 月 学力調査	80.2%(81.5%)	82.2%(79.4%)	48.8%(51.0%)	51.2%(50.9%)	34.9%(40.2%)

イ 結果分析と考察・課題

- ・ 1 学年 「話す・聞く」のみが平均を下回った。聞き取りテストに慣れておらず、集中力を欠いたことが考えられる。
「書く」は、平均を 17 ポイント上回った。小学校で「書く」活動が十分に行われていたものと推察される。
- ・ 2 学年 「話す・聞く」「読む」は、前年度に比べて大きく上回った。読書やスピーチなど計画的に積み重ねた成果が出ている。
「意欲・関心・態度」「書く」は昨年以上に平均を上回った。書いて発表まで行う学習を継続して行った成果である。
「言語事項」が平均を下回っているので、誤答の結果を分析して対策を立てたい。
- ・ 3 学年 「関心・意欲・態度」「書く」については、平均を上回っている。特に、作文ではほとんどの生徒がしっかり取り組んでいる。感想文や作文の継続的な指導の成果が出ている。
「読むこと」では、平均を下回った。解答を分析して手だてを講じたい。
「言語事項」では、文法に関する知識が下回っている。定着していない部分を明らかにして対策を立てていく。

ウ 課題解決のための手だて

- ・ 1 学年 授業中、教師の話や友達の発言等「聞く」力を育てる一方で、定期考査で聞き取りテストを実施して、短時間に集中して「聞く」力を付ける。
- ・ 2 学年 漢字・文法・語句についての指導を重点的に行う。小テストの回数を増やし、できるまでやらせていく指導を行う。
- ・ 3 学年 演習問題に計画的に取り組ませ、文脈に沿って読み取る力を付けていく。
授業の中で「読解」と「文法」を取りあげる時間を増やす。

(9) 平成 22 年度研究の成果と課題

ア 「学力調査」について

- ・ 1 学年 「読むこと」については、接続語の役割や要約の工夫など言語知識の整理を心掛け、説明的な文章への苦手意識を減らすことができた。
「読書」の授業が、本を目的をもって読んだり、深く読んだりする機会になっている。
- ・ 2 学年 「言語事項」の中の漢字の読み書きについては、漢字テストを重ねることで少しずつ理解が深まった。
「読書」の授業を行うことにより、根気よく文章を読む力が身に付いてきた。
- ・ 3 学年 「読むこと」について、特に説明的な文章の読解力に弱さがあったが、教科書のほか副教材の問題集等で演習を重ねた結果、答えの根拠を見つける力が付いてきた。定期考査等の結果にもそれが認められる。
伸びの顕著であった「書くこと」については、作文の時間をさらに多く取り、個々の生徒が自信をもって臨めるまでになった。

イ 「授業評価」について

- ・ 1 学年 「積極的な発言ができた」生徒が限られていたが、小グループでの話合いや報告をするなどの授業を増やした結果、グループの中では活発に発言できることが分かった。
- ・ 2 学年 授業目標を生徒に明示することを心掛けたため、目的意識をもって授業に臨む生徒が増えた。
提出物の点検をきちんと行ったことにより、提出物の遅れや未提出が減ってきた。
- ・ 3 学年 「発言したり質問したりしたか」については、3 年間を通して課題となったが、発問や授業形態の工夫により、発言できる生徒が増えた。

ウ 今後の課題

- ・ 1 学年 課題の提出が遅れる生徒に対しては粘り強く指導し、全員の課題完成に引き続き努める。
授業では発言しやすい雰囲気、発言しやすい発問、授業形態などを工夫し、学び合いの授業になるよう努める。
授業のめあての明示や単元ごとの評価や学習成果物の整理などを行い、どんな力が身に付いたかを生徒自身も理解できる方法を工夫していく。
- ・ 2 学年 漢字はもちろん、平仮名を含め、正しく読みやすい文字を書く練習が必要である。
自分の思いを言葉にして伝えることに対して、面倒に思ったり苦手意識をもったりしている生徒が多い。安心して発言できる雰囲気づくりをさらに心がける。